

弘 前 大 学

# 國 史 研 究

第 147 号

弘前藩における雅楽の変遷

〔書評〕

浪川健治編

『明君の時代』

―十八世紀中期～十九世紀の藩主と藩政―

金森 正也  
18

〔書評と紹介〕

小瑶史朗 篠塚明彦 編著

『教科書と一緒に読む 津軽の歴史』

竹村 俊哉  
24

〔施設紹介〕

高岡の森弘前藩歴史館の開館

鶴巻 秀樹  
28

山田 淳平  
1

弘 前 大 学 國 史 研 究 会

2019・10

本会機関誌『弘前大学國史研究』への投稿について  
投稿規定

◎論 文 四百字詰 60枚程度を原則とする（縦書き、以下同様）

◎研究ノート 四百字詰 20枚から30枚程度

◎研究余録 四百字詰 10枚程度

◎史料紹介 四百字詰 10枚から30枚程度

◎その他（書評・研究動向・歴史随想など） 四百字詰 10枚程度  
◎ワープロでの執筆に際しては、一段に付き32字×23行で組んで下さい。字数は右の規定の範囲で計算して、それを超えないようにして下さい。

◎デジタルデータによる投稿も可能です（事前に編集委員会へ御相談下さい）。行数・字数は、ワープロ執筆と同様に組んで下さい。なお、プリントアウトした原稿を添付のこと。

◎横書きを希望する時は、あらかじめ本会へご相談下さい。

◎原稿締切 一月末日と八月末日の年2回

※投稿に際しては、図表を最小限におさえ、完成原稿でお願いします。また、原稿は必ず御手元でコピーをとって保存しておいて下さい。投稿は本会会員に限ります。

※掲載については、原稿を受領後、編集委員会で審査し、一ヶ月以内に御通知します。なお、文中に掲載許可を必要とする写真・図版等を含む場合には、掲載決定後、著者の責任において権利者から許可の承諾書を取得して下さい。

※掲載分の論文等については、抜刷50部をさしあげます。

※本誌掲載の論文等を転載する場合は、本会の諒承を得て下さい。

―彙報―

◎弘前大学国史研究会第九五回例会は、五月二十五日（土）弘前文化センターで左記の通り開催された。

ゲスト報告者「野生生物と社会」学会会員、博士（学術）竹内健悟氏  
「弘前藩御国日記に見る鳥類の捕獲記録について」江戸時代前期を中心に」  
（F）

◎令和元年度弘前大学国史研究会大会が、九月二十九日（日）弘前大学医学部保健学科第六三番講義室にて開催された。  
研究報告は左記の通りである。

「弘前からみた近世雅楽文化」

奈良県文化財保存課美術工芸担当主任技師 山田 淳平氏

「高照神社奉納 貴田稻城氏絵図について」

弘前市教育委員会高岡の森弘前藩歴史館主事兼学芸員

澁谷 悠子氏

その後、国史研究会総会が開催され、会務報告、会計監査報告、会計報告が行われ承認された。  
（HT）

# 明君の時代―十八世紀中期―十九世紀の藩主と藩政―

浪川健治編

夭折が惜しまれた津軽信明や松平定信、松浦静山、渡辺崋山と主君三宅康直の関係の分析を通じ、十八世紀後半以降の藩主と藩政の関係に肉薄する。

A5判 三四〇頁 八、八〇〇円

# 近世大名家における「家」と「御家」―萩毛利家と門家臣―

根本みなみ著

近世大名の祖としての輝元ではなく、元就の子孫としての身分的優位性を二門にもたせて家臣秩序へ改めて組み入れようとした重就とその子孫、正統に最も近い元徳を養子とする等、正統性の不足を正当性で補おうと努めた敬親を中心に、近世毛利家の傍系相続から生じた緊張関係を描出していく。

A5判 二九八頁 七、八〇〇円

# 戊辰戦争と「奥羽越」列藩同盟

栗原伸一郎著

敗れたりとはいえ、「奥羽越」列藩同盟は、肥後等の諸藩との連携の可能性を秘めていた。維新史の新たな地平を拓く好著。

A5判 三七六頁 八、八〇〇円

# 近世北日本の生活世界―北に向かう人々―

菊池勇夫著

鷹、津波、善光寺信仰、義経伝説、南部屋と旧主飛騨屋、ラクスマン来航時の通訳としての漂流民の子孫、『模地数里』や松浦武四郎の描く風俗、引継文書等、あらゆる側面から蝦夷地と北東北を活写する。

A5判 三三六頁 七、八〇〇円

# 東北の民俗芸能と祭礼行事

菊地和博著

田植踊、神楽、番楽、シシ踊り、祭礼行事を中心に東北の民俗と祭礼を描出すると同時に、震災後の共同体の衰退に警鐘を鳴らす。

A5判 四一八頁 九、八〇〇円

# 近世旅行史の研究―信仰・観光の旅と旅先地域・温泉―

高橋陽一著

従来の歴史学の「抑圧からの解放」といった定型的な解釈を脱し、旅行者の視点と旅行者を受容する「旅先地域論」という視点を設定し、ビジネスとしての観光地論に及ぶ。

A5判 四五二頁 九、八〇〇円

# 東方正教の地域的展開と移行期の間人

―北東北における時代変容意識―

山下須美礼著

晴耕雨読の日々を送る東北の地方知行制下の給人たちが戊辰戦争等による藩の崩壊を目の当たりにする一方で、改革期ロシアの息吹を体現するニコライと出会い、新たな生活の指針を得るに至る道程を活写する。

A5判 二九八頁 七、八〇〇円

清文堂

〒542-0082 大阪市中央区島之内2-8-5  
TEL.06(6211)6265 FAX.06(6211)6492  
ホームページ＝<http://www.seibundo-pb.co.jp> メール＝[seibundo@triton.ocn.ne.jp](mailto:seibundo@triton.ocn.ne.jp)

●価格は税別

令和元年十月三十日

弘前大学 国史研究 第一四七号

036-8560 弘前市文京町一番地

弘前大学人文社会科学部日本史研究室内

編集者 弘前大学 国史研究会

発行者 振替口座 〇二三〇〇一―六二四番